

平成28年5月23日

南相馬機械工業振興協議会
南相馬ロボット産業協議会
会長 佐々木 哲男

「南相馬機械工業振興協議会」と「南相馬ロボット産業協議会」の統合による 新協議会の設立趣旨

平成18年2月に地域内の企業、南相馬市、原町商工会議所などの連携により、機械金属加工産業の発展と技術力向上、新産業創出を目指し「南相馬機械工業振興協議会」が設立され、その後、平成23年12月の東日本大震災以降、新たな経済成長と雇用創出を実現するため、官民一体となってロボット関連産業の創出を目指し「南相馬ロボット産業協議会」が発足しました。

これまでの協議会は、会員企業全53社のうち33社が両方の協議会に加盟し、互いに協力して活動を行ってきましたが、2つの協議会を統合することで、より広い分野の技術を有した一つの技術集団として、会員相互にさらなる知識や技術力の向上を図るとともに、互いの技術を活かすことで各々の分野におけるビジネスチャンスを創出し、地域全体の産業の発展をより強力で推進することが出来るものと考えます。

新たな協議会の名称については、役員会にて検討を重ねた結果「南相馬ロボット産業協議会」としました。

理由としましては、ロボット関連の技術は、災害対応のみならず他の分野に於いても広く必要とされる重要なもので、機械・金属、エレクトロニクス、IT・通信、デバイス、その他関連産業における、個々の高度で実践的な技術開発と、それらを融合させる必要があり、産業を支える「ものづくり」に不可欠な要素技術（精密微細加工や特殊素材合成など）の、現場レベルでの迅速かつ高度な「擦り合わせ」を行うことが出来る環境を整えることが重要とされております。

多岐にわたる分野の企業を会員にもち、加えて学術機関・行政・経済界と連携する新しい協議会は、まさにロボット産業発展の期待に応えるに相応しいものであると考えます。

今後、イノベーション・コースト構想の拠点である「ロボットテストフィールド」及び「国際産学協同利用施設」を新たな地域の産業基盤として、会員企業の多様な技術やノウハウを駆使し、ものづくりの匠の技を「ロボット産業」に活かし、地域の活性化と発展に寄与して頂きたい、ご協力をお願い致します。

以上